

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
教務部	生徒が自ら学ぶ教育の実現のため、教科授業と探究活動との連携を図るとともに、効果的な研修・研究を実現する。	生徒の興味関心を高めながら、生徒が自ら学ぶ授業実践を研究するとともに、内容を共有し協議する機会を設けるため、授業公開週間を6月と11月に設定する。
		生徒に興味関心を持たせ、主体的に学び考える力を育むためのICTの効果的な活用方法について実践研究し、授業公開週間を中心にその内容を共有し協議する。
生徒指導部	生徒の主体的な活動を支える。	生徒会や各種実行委員会と連携し、生徒が主体的に学校行事を企画・運営する力を育成するとともに、「生徒が学校行事を創る」意識の一層の定着を図る。
		生徒主体による効率的かつ有意義な部活動運営がなされるよう、顧問をはじめ関係職員との連携を強化し、指導体制の充実を図る。
		生徒会役員等と連携し、主体的・協働的に課題解決に取り組む態度の育成を図る。
	組織的な生徒指導を実践する。	生徒の状況をきめ細かく把握し、心的変化を含めた情報を組織的に共有する体制を整備して、全教職員による一貫した指導を推進する。
		特別支援教育の視点を踏まえ、個に応じた指導・支援の充実を図るとともに、生徒が安心して学べる教育環境の整備を推進する。
	生徒指導上の事案発生時には、関係教職員及び家庭との連携を迅速かつ適切に行い、組織的かつ継続的な対応体制を確立する。	
生徒・教職員の人権意識の醸成・定着を図る。	教職員の人権意識の深化と実践力の向上を図るため、計画的かつ継続的に人権教育研修を実施する。	
	地域の関係機関等と連携し、生徒の人権意識を高める教育活動を計画的に推進する。	

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
進路指導部	主体的学習者の育成	各学年部との連携を密にし、効果的なキャリア教育に資する取組を立案・実施することで、生徒の希望進路の実現に向けた進路指導の協働体制を充実させる。生徒が自らのキャリアを主体的に切り拓く能力を身につけさせる。
		進路委員を中心として、生徒が主体となって進路行事等を運営する体制を整備する。また、生徒が自ら学びに向かうための学習環境を整え、生徒の希望に応じた教材や進路情報を適切に提供する。
	希望進路の実現の支援	確かな学力を定着させるための進学講習を充実させる。また、スパートゼミの内容を充実させ、主体的・自立的に学ぶ力を身につけた集団を育成する。
		各教科・学年部と連携し、総合型・学校推薦型選抜の指導体制を整備した上で、面接・小論文等の指導を充実させる。
		各模擬試験のデータを適切に分析し、情報を教員間で共有することをおして、個に応じた指導体制を充実させる。
保健部	生徒が主体的に健康管理に取り組む意識を育成する。	保健委員会発行の「well-being」や保健だより、学年ごとの健康教育等をおして、正確かつ時事的な知識を伝える。
		欠席連絡フォームや健康調査、教職員間での情報共有をおして、生徒の心身の健康状況を把握する。
	支援を必要とする生徒に対し、個々の教育的ニーズに応じた適切な支援を提供する。	学年部や教科担当者等と連絡を密にし、学校適応指導会議等をおして教職員間の情報共有を徹底する。
		特別支援教育コーディネーターとの情報共有に努め、必要に応じて外部の関係機関との連携を図る。
良好な学習環境の維持と美化活動に主体的に取り組む意識を育成する。	清掃用具の整理等の美化委員会活動、教職員による清掃指導の充実をおして、校内全体の美化意識を向上させる。	
	清掃指導をおして生徒の環境美化に対する意識を向上させるとともに、活動中のコミュニケーションをおして教員と生徒の関係性を構築し、主体的・協働的な清掃活動を促進する。	

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
図書部	生徒の主体的な学びにつながる図書館の運営	生徒の学びに応じた本をさらに充実させるとともに、必要な本が手に取りやすいようにさらに工夫する。
		図書委員会の活動を整理し、生徒がより活動しやすく、生徒主体の活動や取組が多くなるよう働きかける。
		生徒だけでなく教職員にとっても利用しやすいように環境を整える。
	読書活動の促進と情報発信の充実	授業や探究活動で利用しやすい本を増やし、授業や学習をとおした読書活動の推進を図る。
		ビブリオバトルや読書月間、団体鑑賞等に関連する書籍を整え、行事をとおした読書活動の促進を図る。
		ICT機器等を活用して、本の魅力や図書委員の活動、図書館のイベントに関する情報を迅速かつ効果的に伝える工夫をする。
探究推進部	ICTの利活用を含むさまざまな方法を用いて、生徒の主体的な活動を積極的に校内外へ発信する。	ホームページやSNS等を活用した広報活動を展開し、生徒のさまざまな活動を適宜企画し、充実した情報発信を実施する。
		学校説明会やオープンキャンパス等をとおして、本校の教育の特色やコンセプト、生徒の主体的な活動をさらに効果的にアピールできるよう、企画運営を行う。
	国際交流活動をとおして生徒の主体性を育成する。	NEX等のさまざまな留学プログラムの情報発信や生徒・保護者対象の講演会等をとおして、生徒の主体性を育むための留学プログラムの取組をさらに推進する。
		英語学習プログラムNESTや国際交流活動の選択肢の拡充等の取組をさらに深化させ、国際感覚を養うことで生徒の主体的で深い学びにつながる環境の整備を進める。
	校外との繋がりを重視した探究活動の充実と校内体制の構築を図る。	地域や大学・企業等との長期的な連携を視野に入れた探究プログラムを構築する。また、全ての教職員が探究活動に主体的に関わることができる工夫（情報共有・校内研修等）を充実させる。
	DXハイスクールの助成を活用し、数理情報を中心とする教育活動を推進する。	創造的ワーキングスペース（N-lab）の整備をさらに進め、課題研究や部活動等での活用を充実させる。学校説明会や文化祭等の機会をとおして、ICT環境や活動内容を外部へ公開・発信する。

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	
第1学年部	「one step forward」をコンセプトに失敗を恐れず挑戦する文化を醸成する。	学校行事や部活動、探究活動等の諸活動に主体的に参加することで、充実した学校生活の一步を踏み出せるよう支援する。 進路指導部と連携して、適切な情報を提供することにより、自身の将来について考えていく素地を作る。	
	学習習慣の確立により、進路実現に向けた基礎をつくる。	日々の授業を大切にするとともに、自身で主体的・計画的に家庭学習を行っていけるよう支援することで確かな学力を育成する。 ICTを効果的に活用することにより、学習習慣の確立につなげる。	
	基本的な生活習慣を確立するとともに思いやりを大切にしたい集団を形成する。	挨拶や服装、授業規律等の基本的な生活習慣を確立し、自立した学校生活を送れるようにする。	
		様々な活動に主体的に参加できるよう促すことで、自己肯定感を高めるとともに他者を尊重する思いやりを大切にしたい学年・学級を形成していく。	
		キャリアを考える中で幅広い視野を持たせるとともに、挑戦する心を養う。	進路指導部と連携しながらさまざまな情報発信を行うとともに、学年集会や日々のHR・授業で挑戦することの重要性を説くことで、生徒が自ら確固たる進路目標を持つことを目指す。 学校行事や部活動、国際交流等、高校生だからこそできる多様な経験を積むことを奨励し、視野を広げさせる。
			自立した高校生としての生活・学習習慣を定着させる。
思いやりをもって主体的に行動できるよう、生徒を導く。	学習活動や学校行事において、自分の頭で考え、自分のことを自分で決める機会を設ける。 他者を尊重し、学習活動や学校行事で他者と協働する姿勢を持たせる。		

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
第3学年部	広い視野を持ち、自分の定めた高い目標に対して自ら行動し、挑戦する姿勢を根付かせる。	学習活動を含めた学校生活全般において、自ら行動し挑戦する大切さを、SHRやLHRで生徒に語りかける。
		学校行事やホームルーム活動において、生徒自身で運営する機会をより多く設ける。
	生き方の問題として進路を考えさせ、進路目標に応じた主体的な学習を支援する。	授業を大切にし、スパートゼミ・進学講習等を活用しつつ、自ら学びを進めるよう指導する。
		二者面談やLHRをとおして生徒の意欲を高め、三者面談や説明会等で保護者の理解を得つつ、目先のことにのみとらわれない進路決定を支援する。
	他者を尊重し、お互いに高め合う姿勢を持つ生徒集団を形成する。	互いに気持ちよく学校生活を送れるよう、挨拶や身だしなみをきちんとし、学習に適した教室環境を自分たちで作るよう指導する。
他者の挑戦を応援する雰囲気醸成する。		
附属中学校	学校教育のあらゆる機会をとおして人間的な成長を促し、社会や将来に目を向け、生き方・在り方について創造できる人物の形成を目指す。	生徒の安心・安全に配慮しながら、学習活動や学校行事に主体的に取り組ませるとともに、思いやりをもって協働し活動できる集団形成を目指し、豊かな人格形成を図る。
		学校内外を問わず、部活動やボランティア活動への積極的参加を促す。また、各種検定やコンテスト等に挑戦することを個々に定着させ、活動領域を広げ人間的な成長を図る。
	新しい南陽の中高一貫教育の体制を整え、生徒がより真摯に学習活動に取り組める環境を整備し、特色ある教育活動を実践する。	新たな“チーム担任制”について、メリット・デメリットを精査し、本校独自の体制の完成を目指す。また、常日頃から業務のアップデートを図り、積極的かつ挑戦的にさまざまな取組を行う。
		知的好奇心や自己肯定感を高めていくため、授業への取り組み方や学習課題の在り方について研究し、生徒の主体的・探究的な学びを進めていく。
大きな視点に立って目標を掲げ、主体的に活動していく姿勢を身につけさせる。	卒業生講話や海外留学・進学の経験を知ることで、目先の進路だけでなくグローバルな視点を持たせつつ、より遠い未来を考察させるようなキャリア教育を体系的段階的に行う。	

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
事務部	主体的、積極的に学校運営に参画する。	事務職員としての専門性を生かし、各分掌・教科との計画的かつ継続的な連携を推進するとともに、円滑で効果的な学校運営に主体的に参画する。
	校内の安心、安全、美化を推進する。	危険箇所を早期発見するため、月1回点検を実施し、計画的に着手するとともに、柔軟に施設管理の改善を行い、教育環境の整備に努める。
国語科	授業やスパートゼミの質を高め、生徒の希望進路の実現及び社会生活に対応できる伝える力を育て、伸ばす。	難関大学の入試問題を研究し、その成果を授業やスパートゼミでの指導で生かすことにより、生徒の進路実現につなげる。また、教科内で適宜指導の成果を共有する。
		生徒の知的好奇心を高め、生徒が主体的に学ぶ意欲が高まるような授業を展開するとともに、ビブリオバトル等を活用して生徒に読書のおもしろさを啓発し、生徒の視野を広げる。
	中高一貫を見通した指導体制を整え、更に充実・発展させる。	生徒を多面的に評価するために、言語活動を充実させ、適切な評価につなげる。 教科担当者や学年部と連携することで、教材や生徒に関する情報共有を密にし、中高一貫校の強みを生かした指導を行う。
地歴・公民科	広い視野に立ち、主体的に学習に取り組むことのできる生徒を育む。	中高一貫教育の6年間を見通した指導内容の体系化を進め、生徒の自立的な学びを促す指導体制を確立させる。
		社会的な諸課題を探究する授業や、ICTを活用した生徒主体の授業を実践し、実践内容・評価方法を教科内で検討することで、学習効果の向上を図る。
	難関大学進学をはじめとする希望進路の実現を支援する指導を行う。	模擬試験の結果や入試傾向の分析を行い、共通テスト・個別試験双方を見据えた指導内容を検討するとともに、その知見を共有する体制を設ける。 スパートゼミ、進学講習等を効果的に活用し、生徒の希望進路実現に向けた取組を進める。

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
数学科	学力の3要素をすべての生徒に身につけさせる指導方法を確立する。	個に応じた学習指導を行うことで、基礎的な数学力を定着させるとともに、個々の数学力がより向上するような質の高い授業を展開する。
		希望進路に応じた課題設定を行うことで、計算力及び論理的思考力、記述力を養い、また適宜発表活動等を取り入れながら、希望進路が実現できる数学力を培う。
		BYODや中学での授業の実践を教科内で共有し、個々の教員がICTをより一層効果的に使えるようにすることで、生徒の学力伸長に繋げる。
	数学を楽しみ、主体的に探究する精神を育成する。	学年や実態に応じて、生徒が興味関心を持って主体的に学び合えるような教材や思いやりを持った指導方法を教員間で共有し、実践する。
		数学に関するコンテストへの積極的な挑戦を促し、数学の魅力・おもしろさに触れたり、普段とは異なる数学の問題に挑戦したりする機会を増やす。
		数学の枠を超え、他教科・他分野の内容に触れたり、関連性を大切にしながら、数学の必要性・有用性を生徒に実感させる。
	中高一貫教育および最難関大学進学に向けた指導体制の充実及び教科指導力の向上を図る。	2クラスとなる中学校教育の進め方を研究し、6年間を見通した授業の進度及び指導方法について、適宜教科会議で共有し、洗練する。
		スパートゼミ・夏期講習・冬期講習の内容や進捗状況について、教科で共有する場を適宜設定し、最難関大学進学に向けた指導方法を確立する。
		「主体的な学習者」の育成に向けた授業のあり方、課題設定のあり方について、6年間を見通した段階的指導を考え、実行する。

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
理科	主体的に学ぶ生徒の育成	主体的・対話的な授業の実践、思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、ICTの効率的な活用方法を模索する。
		主体的に学びに向かう生徒の育成を目指し、授業の在り方や課題の工夫、指導と評価の一体化について研究し、授業改善に取り組む。
		模擬試験等を活用することで生徒の個々の学力や課題を共有するなど、学力伸長に向けた組織的な指導を展開し、最難関大学合格など自ら高い目標をもって進路を切り拓く能力を養う。
	授業を起点とした探究活動の深化	DXハイスクール事業を通じて新規購入されたデジタル機器等を活用し、観察・実験を充実させることで理科への興味を深めさせる。また、生徒の挑戦心や探究心を刺激し、探究活動等において外部発表の機会や情報発信を増やす。
	中高一貫6年間の教育の充実を目指し、授業や実験の方法を見直すとともに、その成果を他クラスの授業だけでなく、サイエンス・総合的な探究の時間においても活用する。	
保健体育科	授業を通じて、粘り強く深く挑戦する姿勢や仲間と協働し課題を解決する力を育てる。	挨拶、礼儀、時間やマナーを守るといった基本的な社会性を身につけ、形だけでなく実際の生活の場面で自然と行うことができるようにする。
		自立した学習者として、何事も前向きに、粘り強く深く挑戦する姿勢を育てる。
		知識・技能を深め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、実践をとおして、コミュニケーション能力や仲間と協働し課題を解決する力を向上させる。
	現代社会における健康課題について深く学び、将来へ繋げる。	現代社会や今後の人生において起こり得る健康課題等について深く学ぶとともに、学習を自分事として捉え、広い視野を持って自他のよりよい生活を築く力を育てる。
	課題学習の質を高め、活動をとおして思考力・判断力・表現力を向上させる。	

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	
芸術科	表現・鑑賞を通じた資質・能力の育成	表現および鑑賞の基礎・基本的事項の確実な定着を図る。 鑑賞・制作・発表活動を主体的に行わせ、多様な表現活動をとおして互いのよさを認め合う態度の育成を図る。	
	鑑賞・批評能力と言語活動の充実	日本及び西洋の伝統的な芸術の特徴や共通点・相違点を理解させ、主体的に表現へとつなげる力の育成を図る。 グループ発表や対話的な学習活動をとおして言語活動の充実を図り、自らの言葉で芸術を鑑賞・批評する力の育成を図る。	
	教員の授業力向上と学習環境の充実	研究授業、互見授業、研修会等を計画的に実施し、指導方法の工夫・改善を図る。 学習者の知的好奇心を喚起し、生徒が主体的・協働的に学ぶことができる授業づくりの推進を図る。 ICT機器やタブレット端末の効果的な活用をとおして、多様な芸術理解の深化と授業の質的向上を図る。	
	英語科	基礎学力の定着と自立した学習者の育成	CAN-DOリストに基づき、4技能5領域（聞く・読む・話す（やりとり・発表）・書く）の活動を、生徒の実態に応じて授業に取り入れる。あわせて、自分の到達度を把握し、適切な目標を立てられるようにする。 学習の計画→実行→振り返り→改善の流れを身につけ、自分で学びを進めていく力と最後までやりきる力を育てる。 AIを活用した教育用アプリを活用し、生徒一人ひとりに合った課題（基礎～発展）を提供することで、自学自習を支え、基礎学力の向上を図る。
		英語でコミュニケーションを図ろうとする態度と実践力の育成	目的や場面に応じて英語を使える力を育てるため、話す・書く活動を中心とした授業の工夫・改善を行う。あわせて、自分の意見を筋道立てて伝え、他者の意見を尊重しながらやりとりする態度を育てる。 ALTや他分掌と連携し、授業内外で英語を使う機会や学んだ知識を実践的に活用する場を計画的に充実させることで、英語学習への関心を高め、主体的に学ぶ意欲を引き出す。 ルーブリック等を活用して評価と指導の一体化を図り、テストや課題に対する効果的なフィードバックをとおして、生徒が自己の課題と改善の方向を把握し、改善できるよう指導する。

## 令和8年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
家庭科	主体的・協働的な実践活動・体験活動を通じて、よりよい生活の実現を目指す。	<p>ペアワークやグループワークを効果的に取り入れることで、生徒同士が学びあう授業づくりに努める。</p> <p>家庭生活の構築を自分事と捉え、生活改善に向けた取組を生徒から保護者に発信する機会を持ち、実生活に根付かせる。</p>
	ICTの効果的な活用とアナログ的な活動の調和での授業内容の充実を目指す。	授業の内容や場面に応じて、効果的にICTを活用することで、実験・実習等のアナログ的な内容をさらに充実させ、知識や技術の習得を目指す。
情報科	情報について科学的な見方や考え方を養い、活用できる知識や技術を身につけさせる。	<p>情報の科学的理解と情報の収集・分析・活用・発信等の実習をとおして、問題の発見とその解決の方法を習得する。</p> <p>日常生活を題材にした課題をとおして、現在の情報社会が抱える問題の解決について考えるとともに、コンピュータやネットワーク構築の仕組みに興味を持ち、家庭内等の小規模ネットワーク構築および管理ができるようにする。</p>
	情報倫理を身につけ、情報社会に積極的かつ公正に参画する態度を育てる。	<p>知的財産権を含む権利について深く学び、日常生活における身近な法規を理解し、著作権の保護、肖像権への配慮に努め、情報社会の一員として社会に参画する態度を養う。</p> <p>ソーシャルメディアやインターネット等の利便性だけでなく、情報の信憑性の低さを理解させるとともに、不正アクセスを防ぐために各種アプリケーションのアカウントを正しく管理できる力を養う。</p>
	主体的に学ぶ生徒を育成する。	<p>昨年度に引き続きタイピング能力の向上に努め、生徒一人ひとりが自身の考えをプレゼンテーション作品やプログラムとして作成できる基礎技術を養う。</p> <p>プログラミングの基礎である順次処理、分岐処理、ループについて学習しつつ、どのように組み合わせることでコンピュータを思い通りに動かすことができるか試行錯誤する。</p>